



## 夜

---

暗闇の中に隠れてしまえば、希望の光も愛の歌も聞こえなくなる。

それでも僕は、この黒の世界に埋もれてしまいたくなるんだ。

何もない、何も見えない暗闇の中に。

眠れない夜、ベッドから起きては、また戻ることを繰り返して四時間。

ベランダから差し込む空の色が薄い灰色になったら、また、ベッドから出る。

携帯電話を手にしては、かける相手を探してみる。

あきらめて、枕に投げつけると、また、眠れないベッドにもぐる。

悩んでるわけじゃない、不満があるわけじゃない。

ただ、日々は無情に過ぎていくばかりで、焦る気持ちが僕を呼び覚ます。

そんな日もあるだろう、だなんて月は笑う。そんな夜もあるだろうと、雲は流れる。

未来を夢見ていたあの頃、描いたとおりの人生ではなかったけど、それなりに幸せを感じている。  
。だけど、ふと立ち止まると、去っていく。希望に満ち溢れ、自信に満ちていた自分が。

暗闇を、光に変える力を見つけてごらん。

誰かが言った。

そんなに曇った瞳じゃ、何もかもが雲って見えるはず。

光を照らして、よく見てごらん。そんなに悪い世じやないはずだ。

僕は、そっと月に手を伸ばした。